



医学を志せど、少年老い易く、学成り難し

早稲田大学スポーツ科学学術院教授・保健センター医師 鈴木 克彦

稲門医師会の皆様、はじめまして。母校のスポーツ科学部で医学関連の研究と教育を担当しております鈴木克彦と申します。専門は予防医学、免疫学、補完代替医療科学です。

私の医学への意志表明は、高校2年生のホームルームの時間に将来何をしたいかを順番に発表する機会があり、その折に「スポーツ医学」を学びたいと述べていたのが最初と思います。高校卒業時には医学部に入れるほどの学力はありませんでしたが、折しも人間科学部が新設され、そのなかに「スポーツ科学科」があり、スポーツ医学を学べるだろうと思い入学しました。今でこそ、健康スポーツ科学部など「スポーツ」と名のつく学部・学科は全国で20を超えましたが、1987年当時は早稲田大学が国内で最初にスポーツ科学科を設置し、私も第一期生として、まさに「進取の精神」で入学しました。大学の授業では免疫学の面白さを学び、卒業論文では運動トレーニングによって免疫機能がどのように変化するかを研究しました。大学院にも進学しましたが、そこで研究の厳しさを経験し、世の中の役に立たないような細かい研究をするよりも、医学を一から学び直し、直接人の役に立てるような仕事がしたいと一念発起して、医学部を再受験することに致しました。

1993年に弘前大学に入学しましたが、当時は学士編入制度もなく、早稲田大学で取得した教養科目の単位は認められましたが、医学部6年は短縮できないということで時間を持って余していました。幸い、大学院で免疫機能の測定を修得していたこともあり、衛生学教室で研究活動を再開することになりました。その成果は数年で *International Journal of Sports Medicine* に論文が掲載され(1996年)、地方大学からでもスポーツ医学の分野では世界に情報発信できることを経験し、授業以外はほとんど研究室で過ごしておりました。

1999年に医学部を卒業し、2年間は内科系の臨床研修に専念しましたが、もう少し臨床経験を積みたいと思っていた2001年に *International Society of Exercise Immunology* (米国バルチモア) で学会発表しないかと誘われました。医学生の頃に収集したデータで発表しましたところ、若手研究者賞をいただくことになりました。当時の教授も、助手に採用することに決めておいたから…ということで、また研究に舞い戻ることになりました。

2003年秋に人間科学部専任講師に着任しましたが、専門外の講義や雑務などで忙殺され、緊急入院も経験しました。しかし諦めずに研究を続け、2015年からは上記国際学会の会長も務めることになりました (<http://www.isei.dk/index.php?pageid=14>)。今後もスポーツ選手の健康管理や中高年者の疾病予防・健康増進に役立てられるようなスポーツ医学の研究を標榜し、「学の独立」と言えるくらいにまでやり遂げたいと思います。皆様には、ご支援、ご協力をお願いすることもでてくると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。